

公益社団法人埼玉県理学療法士会
令和6年度第4回理事会議事録

1. 開催日時：令和6年11月19日（火）19：00～21：10

2. 会 場：埼玉県理学療法士会 大宮ソニックシティ 602 会議室

3. 理事現在数及び定足数

理事現在数 20名 定足数 11名

4. 出席理事数 19名

出席理事： 南本浩之、岡持利亘、水田宗達、田口孝行、原田慎一、渡邊雅恵、横山浩康
渡邊賢治、兵頭甲子太郎、赤坂清和、三宮将一、阿久澤直樹、櫻場勝、高野大智
米澤隆介、平野輝利人、菊地裕美、木村佳晶、杉本諭

欠席理事： 馬崎昇司

5. 監事現在数及び出席監事氏名

監事現在数 2名

出席監事： 矢野秀典

欠席監事： 清宮清美

6. 出席部長・エリア長・委員長

知久逸平、塚田陽一、渡邊孝広、中島智博、柳田千絵、大塚修、馬場裕之、前園佑貴、吉原旦容、
村田健児、山口賢一郎、小高拓也、川崎翼、二宮省吾、西尾尚倫、佐藤渉、颯川和彦、高野利彦、
佐々木洋平、駒井敦、飯塚浩二、坂田修、榎本隆、柴崎隆次、大久保勇紀、中島浩二、金子佳弘、
瀧澤達也、馬場章人、小山勝士、本宮光信、大隈統、石動恭平、吉田和正

7. 出席部員

渡邊彰、西岡幸哉、早船美香、勝俣亜希（書記）

8. 議長の氏名

南本浩之

9. 議 題

< 計画内審議 >

なし

< 計画外審議 >

【事務局】株）バックテックから参加費無料のセミナーについての情報掲載（LINEWORKS からの継続
審議）

< 報告事項 >

- LINEWORKS 審議について
- 【南部ブロック】LINE 公式アカウント運用状況報告

< その他事項 >

- 来年度重点目標について
- 災害時のリハビリテーション支援活動に関する協定書について

10. 理事会の議事の経過の要領及びその結果

(1) 定足数の確認等

冒頭、議長が定足数の充足を確認し、本会議の成立を宣言した。

(2) 議案の審議状況及び議決結果等

<計画内審議事項>

なし

<計画外審議事項>

【事務局】株 バックテックから参加費無料のセミナーについての情報掲載（LINEWORKS からの継続審議）について

詳細は資料参照。

南本：バックテックという一般企業から参加費によるセミナーの案内がきていた。その件に関して岡持副会長が情報収集している段階である。この件に関しては後ほど議論したい。

<報告事項>

➤ LINEWORKS 審議について

岡持副会長より資料について説明があった。詳細は資料参照。

岡持：就労世代の労働災害予防のようなセミナーを応援して欲しいという動きがある。就労世代に対する保険活動を業務として学ぶようにする必要がある。一方で、講演の有無に関して営利目的という点を除外していきたいところ。個人参加され、個人の情報が収集される。その後参加した企業が事業を行おうとした際に声がかかるのは当然だと思うが、この場合、会としてどのように捉えたらよいか意見をいただきたい。

ただ、理学療法士が会として研修を行うのは早急に出来るものでもないと思う。情報収集という視点もあるか。企業が理学療法士に対して学びの機会を協賛するか否か、などいかがでしょうか。

赤坂：個人の判断で必要な人が探すのではないか。埼玉県理学療法士会として後援することで生じるリスクはあまりないのではないか。

岡持：協会にも聴取した。依頼された際に動くことであるため、推奨しているというわけではないという定義のもとでご判断いただきたい。

必要だと感じるひとの参加は止める必要はない。引き続き投票をお願いいたします。

南本：変更希望の人は変更します。

➤ 【南部ブロック】LINE 公式アカウント運用状況報告

米澤理事長より資料について説明があった。詳細は資料参照。

上記の説明に関連して、次の質疑応答があった。

南本：当初 LINE 公式アカウントについての議論であったが、目的をもう一度

米澤：例えば、症例検討会や事業・活動などに対してエリアの人達に来てもらうため、ピンポイントでタイムリーにメールを送りたいため。

南本：メルマガでも現在配信している。それに対して LINE でも報告を入れるという理由が『エリア』でというような記憶があったが

米澤：その地域の人達全体に一斉配信であると直接返信ができない。メールは LINE に比べ、実際に既読したかどうか分かりやすいという理由もある。

南本：今の内容でみると、月 1・2 回送っていたが、その頻度でやっていけそうか。登録者数が増えたら当然増加すると思うが。

米澤：事業がある際は頻繁に送るが、事業がない月は送る内容がない。メール作成には手間がかかるため、運営の負担も考慮して月 2 通程度が良いか。受け取る側としても頻度が多すぎてもと思う。

阿久澤：今後南部ブロックで行い、他ブロックまで波及出来るかというテストも含めて試していただいていると思う。しかし他ブロックでもう既にこういった手段に頼らずとも、ある程度ネットワークが構築されているエリアもあるので、これとは別の手段もあるかと思う。

南本：ブロック連絡委員会等でも少し検討していただきたい。

<その他の事項>

▶ 来年度重点目標について

水田理事長より資料に基づいて説明があった。詳細は資料参照。

原田広報局長より広報局・事業局について資料に基づき説明があった。詳細は資料参照。

田口副会長より学術局・教育局・専門性委員会・学術教育委員会について資料に基づき説明があった。詳細は資料参照。

渡邊副会長よりブロック部門について資料に基づき説明があった。詳細は資料参照。

阿久澤職能局長より職能局についての資料説明があった。資料は参照。

南本：今年度も赤字予算で組んでいる。県の監査による指摘もでている。若干のマイナス予算になる予想。予算運営について横山さんより説明を頂きたい。

横山財務局長より予算について説明があった。LINEWORKS 内の資料参照。

横山：決済、財務状況について説明をさせていただく。

まず出費状況について、9 月頃に各事業に事業費の取り組みが完了していると思う。しかし、振り込んだ結果、管理費に充てるお金がなくなってしまった状況である。管理費は、事業所の家

賃や事務員などの給与に充てる県士会運営の費用である。先日、LINEWORKS で不要な出費をお控えいただくようアナウンスしたものは、このような現状からくるものとしてご理解をいただきたい。

10 月からの郵便物の費用高の影響から、事業計画、予算案を作成する前に、郵便を用いない方法で代替可能かなど、手段を検討していただきたいと考える。郵送となると事務員の負担も重なるため、県士会運営の方にはプラスになる可能性が高いと考えている。

話は戻るが、お金がないという実態の原因としては、会費等の収入に対して支出が多いことになる。会長からのお話にあったが、今年度の収入は、会費と賛助会員の会費、協会からの振り込みを含め 6200 万円を予定している。対して費用が、7800 万。費用内訳は事業費の 5200 万と管理費 2500 万、特定で 100 万ということになる。この予算の段階でマイナス 1600 万円からスタートしている現状である。

この 1600 万のマイナスを許容した予算編成について、毎年 2 月あたりにある返金額の合計が約 1600 万程度で推移していた事実があるため、マイナス予算を許容した予算にした次第である。

今年度における整理として、資料の貸借対照表と言うところを見ていただきたい。資産の合計が 4724 万で内訳は 4328 万円と固定資産 369 万。資産に対して負債が 83 万円。

次に消費財産上限計算書を見ていただきますと、収入がここまで 589 万円。こちらは 10 月以降で賛助会費、学会の収入が入金されて、概ね予算通りを見越している。

対して支出は、現在まで 2597 万。内訳として事業費で 1520 万、管理で 1071 万円。管理費について、概ね予算の半分となっており、予算通りの進捗状況。事業費について、5519 万の予算に対して 1520 万円と 3 割程度となっている。今期 190 万の赤字予算となっているため、現金の残高とに算出すると、10 月以降の事業費が 3000 万を超えてしまうと資金が足らなくなる状況。こちら後期の事業費が 3000 万だと仮定するとトータルでマイナス 983 万という着地になってしまう。皆さん絞った状態で運用する必要がある。

以上が今期の予算編成になるが、このような状況から、全ての予算において一律の割合で減額していく方向でお願いしたいと考えている。

日本理学療法士協会でも同様に 30%減の予算編成を行っているという情報もあるため、その背景からも今回減算にできればと思う。事業に関して、25%減の 3900 万で予算を組んで行きたいと考えている。一例として、研修会の開催に関して事前会議を 2 回やっていたものを 1 回に調整するなど、当日の運営スタッフを調整するなどを検討していただきたい。

県士会において、お金が無い状況のため、次年度からは事業費 25%減をお願いしたい。

南本: 2 月に予算案承認になる。当然ながら事業を行うとお金がかかるが、その中で 25%減を目標数値としてご検討いただきたい。意見交換の中で、重点的に行う必要がある部分出てくると思う。他の部署がどう考えているのかもお分かり頂いた上で、協力体制等も考えていただき、業務のスリム化をするところ、重点項目で協調していくところをディスカッションしていただきたい。ブロックと職能局が実施している重複部分等の見直しも必要かと思う。

予算の考え方は一律全部の事業に25%ではなく、トータルして県士会の事業費が25%減になることが目標である。

<ディスカッション 40 分間>

田口：教育局では入会促進を重点的に取り組んでいく。会員数を増加させるにあたって、他局はどのようにしていくのか知りたい。

学術的・職能的どちらを重点に置くかは検討が必要。

小児福祉部と学校保健と以前お話をしたが、やはり実施内容が違う部分があり、一緒にすることが難しいという現状もありました。

学会が赤字である。無料だから参加していたのかを検証が必要。学会に触れて入会の促進をしていくと良いか。

南本：他の部署では新入会促進について話が挙がったところは？

水田：会員成長戦略委員会が立ち上がっており、この組織を強化していこうと動いている。

広報局や教育局も色々考えていただいているので、ある程度連携してできたらと思う。

原田：広報のほうでは、ホームページ等、情報が載っているタイミングが大事。しかるべきタイミングで載っていることが重要。

平野：交流会議で110名集まりました。その中で学生や会員がいたが、前向きに取り組めると回答いただいたため、新入会促進のきっかけに交流会議になっているのかと思う。

また職場に入職した際、会員に入っているかの確認をする。各職場での声掛けも重要ではないか。

渡邊賢：学会に関して、金額的にはボリュームがある事業であり5年経過しているので再検討も必要か。

南本：学会評議委員会にまとめていただきたい。

渡邊雅：対面・オンライン両方実施。対面であると不参加な場合もあるため、母世代が参加出来るように体制を整える。士会承認型研修会と交流会を合体すると良いか。交流会ならエリアごとに限定できる。講師のお金もかからなくなるため、交流会のみの金額に抑えることができるのではないか。

公開講座は市で行う体力テストなどに乗っかる啓蒙活動であれば、金額が抑えられつつ集客もあるため、そのような方向で進めていきたい。

フェスタの協力はするが、来年度からは広報局が予算を出してくださる予定。

原田：その件ですが、会計担当者にまだ確認できていないので、後日共有します。

田口：ブロックは何を重点に活動しているのか？

渡邊雅：基本は交流ネットワーク。交流会をメインにしたいが、それだけでは集まらないため、研修会后に交流会を実施。交流ネットワークを行い、研修会に興味のない会員にもまず来てもらう。

渡邊雅：教育事業局について、小児関係の研修会がない。教育局では小児に関する勉強会の開催を検討していただきたい。

赤坂：ご案内を検討している。

渡邊賢：事業局は外部との関係性が高いものと、外部に向けた啓発という特性がある。25%減を今年度予算でみると、マイナス約130万を目標。4事業あるため、大体1事業あたり32万5000円で、17・18の事業があるため、1個あたり2000円削減していく。会議費は削減できない。会場代が多い苦悶のため、ウェブに切り替えるなどで削減したい。しかし、他団体と一緒にやる事業は難しい。また、年2回開催を1回に集約することも検討。小児に関して、事業に関して重複している部分もあるが、細かい部分で違いもある。似ているテーマだからと言って1つにするのは難しい。一年で25%はハードルが高いと感じた。

原田：補足として、他団体との絡みの中で収入を得ることが出来ないという意見もあった。収入が難しいのであれば、備品を他団体から出してもらったりなど、負担軽減するような案も挙がった。

三宮：広報部は3部あり全体的に予算がかかる部である。物価高で広報誌の発行費用が高くなっている。発行部数を検討していきたい。

インターネット管理部のホームページ変更などしているが、固定的な予算になってきているため、ここでの大幅減額は見込めない。

理学療法フェスタについて、アンケート実施。チラシ配布で知ったのはほぼ0。当日みで来場している人が多く、次いでナックファイブで聞いた人が大半。チラシ自体は作成するがSNS等で発信し予算の減額にしたい。会場費用の削減も検討していきたい。

赤坂：メルマガ配信、フェイスブックの内容をInstagramやXへの配信も検討してみてもどうか。

阿久澤：高齢者向けへのアクセスは出来てきているのかと思う。高齢者に関しては行政でやっているし、理学療法士会でもやらなくてもよいかと思う。事業局では若い世代や就労世代に対しての情報発信を強化してみてもどうか。介護職やケアマネ向けというものも、埼玉県が主催して研修をしているところもあるため、その辺情報共有し、理学療法士が講師になってアクセスしても良いか。

渡邊賢：団体同士での学びも出てきている。その点も事業局として県民向けなのか、他団体と共同しながら展開していくのかも見ていく必要がある。ご意見いただきたいところ。

田口：広報に関して、他職種への情報はどこかで一括して事業を広報してくれるようなネットワークが作れたらと思う。

三宮：事務局としては他職種へは難しいと思う。どこ宛てにするかをまとめないと難しい。

田口：他事業でリストやファンクラブなどがあるかもしれない。ホームページを見てもらうだけでなく、こちらからも発信する方法も検討してもよいかと。

米澤：Facebookをみると、フォローしてくださっている他団体はそんなに多くはない。そのため、相互フォローを積極的に行い、自動的に発信するなどの機能を上手く活用してやっていただいてもよいかと。

木村：県学会についてもSNS発信の検討してみたい。

阿久澤：医療保険・介護保険で削減するところは連携に関わる場所と考えている。病院と在宅や訪問リハに関わる人が多い。訪リハでの企画研修会があるため、そちらで扱っていただく分、医療保険部・介護保険部では別のテーマを設けて行っていく。

災害リハに関して、地域リハと同じ土俵。災害リハに関わる対象者は地域ケアで地域に出ている人間が1番親和性も高いと思う。地域包括ケア推進部で抱えている人材、担保している人材に対して災害の研修に出てくださると干渉する形でコラボしたい。地域ケアの実務者ブラッシュアップ研修で災害について取り扱い、お互いパワーアップできればと思う。

就労に対しても、人材の確保をしたい。地域包括に出ている人材からも就労に対してコラボしたい。

業務推進部に関して、役員連絡会議を今年度3回企画したが、テーマが絞りにくく、各代表議員や役員から意見をいただくというのは非常に貴重な機会であり、今後も続けていきたい。病院・施設間との連携に関して、期待したい。

ブロックに関して、基本的な内容や仕組みに関するテーマ内容が挙がったとき、新人療法士に届けたい。その際はお声がけいただきたい。

水田：管理者ネットワークについて、代表者会議というものを開催しており、管理者向けの情報発信を行っている。一方で、職能局でも管理者研修部というものがあるため、その両者を整理したい。

西尾：管理者研修部としては、管理者育成の研修というように振り分けたほうが良いと思う。ネットワークを作ることに限っては、別で考える必要があるか。

水田：事務局は管理費削減を取り組んでいきたい。代表者会議を廃止する案や役員連絡会議を毎月実施しているが、あえて皆で集まらずに行っても良いか。

団体保険に加入しており、事務局では130万かかっているため他団体の状況を確認して無くしていく必要もあるか。

ZOOMに関して、皆様に有料アカウントを配布しているが、今年度100万円以上かかっているため、使用頻度が少ない有料アカウントは返却していただきたい。ZOOMに代わる方法があればご意見いただきたい。

南本：局部・委員会で来月事業解決案の提出を依頼。期限はLINEWORKS内で連絡する。

➤ 災害時のリハビリテーション支援活動に関する協定書について

岡持副会長より説明があった

岡持：今月中に埼玉 JRAT と埼玉県が災害時の協力体制として協定を結ぶことになった。埼玉県と埼玉 JRAT の協定のため、理学療法士会としては何もないが、埼玉 JRAT を説明する上で理学療法士会の名前も入れて広報したい。ご周知お願いいたします。

矢野：3/4 削減も大変かと思いますが、会長・副会長で判断しつつ皆様のお力で継続していただければと思う。お疲れ様でした。

以上をもって議案の審議等を終了したので、21 時 10 分、議長は閉会を宣し、解散した。
この議事録が正確であることを証するため、出席した代表理事及び監事は記名押印する。

会長 _____ 印

監事 _____ 印

監事 _____ 印